

11月12日OECD理事会における兒玉大使ステートメント (2014年OECD閣僚理事会のテーマ案の紹介)

2013年11月12日
OECD日本政府代表部

1 冒頭

2014年OECD閣僚理事会議長国の大使として、本日のOECD理事会で、明年の閣僚理の準備プロセスを開始できることを光栄かつ嬉しく思います。これから2か国の優れた副議長国を決定することにより、明年の閣僚理のビューローを構成することができるようになります。明年の閣僚理のテーマ及びプログラムについての正式な提案は12月の理事会でビューローから行いますが、本日は、日本が議長国を務める2014年閣僚理のコンセプト案についての私の粗々の考えを紹介したいと思います。

現時点で、日本としては、次の2点を2014年閣僚理の主要な柱としたいと考えています。第一に、世界経済を「レジリエント (resilient)」なものにすること、第二に、東南アジア地域プログラムの立上げを含め、OECDのグローバルな重要性を高めることです。

2 レジリエンス (resilience) (注: 当代表部仮訳は「しなやかで強靱であること」)

(1) レジリエンスの定義

日本では、竹はレジリエンスの象徴です。冬に、雪が竹に降り積もると、竹はしなやかにしなりますが、決して折れません。雪が溶けてなくなると、竹は再び真っ直ぐに成長し始めます。我々は、このようなレジリエンスのイメージは、2014年5月のOECDウィークに各国閣僚が集まり、強く、持続可能で、包摂的な (inclusive) 経済を実現するための効果的な戦略を検討するに際し、有意義で有益なアイデアを提供してくれると考えます。

レジリエンスの一つの定義は、「ショックに持ちこたえ、ショックに見舞われても迅速にそこから回復する経済の能力」というものです。我々は、レジリエンスというコンセプトの新たな側面にも光を当てること、更に先に進みたいと考えています。それは、「bouncing forward」というコンセプトで、将来のショックから影響を受けにくくするため危機以前よりもよりしなやかで強靱な経済を探求することです。

(2) レジリエンスの重要性

2008年の金融経済危機から5年以上が経過しました。我々は皆、それに続く「大恐慌」に苦しみましたが、国際社会は、1930年代と同じ過ちを繰り返すことは何とか回避してきました。2013年の世界経済は回復基調にあり自信を取り戻しつつあるように見えます。しかし、この回復はまだ脆弱であり、世界は依然として経済的・社会的な傷跡を癒すためもがいています。まだ多くのことをしなければなりません。

私は、OECDの最も重要な使命は、2008年の危機後の後の世界においても変わらないと考えています。成長と雇用はOECDの知的議論の背景にあり続ける「通奏低音」となっています。2011年OECD閣僚理事会の50周年を記念した未来を展望するヴィジョン・ステートメントは、持続可能で、バランスがとれた、

あまねく広がる成長（sustainable, balanced and inclusive growth）の重要性をはっきりと確認しています。我々は、人々のより良い福祉のための成長を確保する戦略的な政策の選択肢を断固として探求していかなければなりません。

さらに重要なことは、先年の経済危機は、ショックや制約の影響が即時かつ広範に広がり得るといふ今日のグローバル化した世界の非常に複雑で相互に関連した性質を浮き彫りにしました。そのため、我々は、将来の危機に対して、世界全体のレジリエンスを高める必要があるのです。つまり、我々は、人々、国家や地域経済、そして国際経済制度（グローバル・システム）のそれぞれを強化して、レジリエントにしていく必要があるのです。

（3）政策への示唆（レジリエンスの向上のための政策は、持続可能でバランスがとれたあまねく広がる成長にいかに関与できるか）

よりレジリエントな経済社会を達成するための政策には、様々なものがあり、次回閣僚理事会に向けた議論の中で優先順位付けが行われていくことでしょう。とりあえずの試案として、私は、次の3つの異なるレベルでこの課題に取り組んでいくことを考えています。

- 人々のレジリエンス
- 国家・地域経済のレジリエンス
- 国際経済制度（グローバル・システム）のレジリエンス

第一に、我々は、人々、特に女性、高齢者、若年者の能力を強化すること及び適切な保障を付与することに焦点を当て、人々が労働市場においてその潜在能力を十分に活用し、成長のプロセスに参加できるようにしなければなりません。これがあまねく広がる成長（inclusive growth）です。あまねく広がる成長は、人々の格差を是正し人々と政府との信頼を確保するためにも不可欠であり、あまねく広がる成長は、社会の一体性を強化し社会不安のリスクを減らすことを通じ、社会のレジリエンスを強化することにもなります。

第二に、国家・経済のレベルにおいては、我々は、人口動態の変化等様々な制約や長期的傾向を考慮しながら、持続可能でバランスのとれた成長（sustainable and balanced growth）のためのより洗練されたマクロ経済政策と構造改革を探求しなければなりません。それゆえ、財政再建と成長や格差是正と成長など一見対立するように見える政策的処方との最適な政策の組み合わせを探求することが避けられません。技術革新（イノベーション）は、環境、高齢化、資源不足などのリスク要因を克服するだけでなく、そうしたリスク要因を新たな成長の源泉に転換させることを可能とするので、特に知識への投資を通じた技術革新（イノベーション）の促進は、多くの重要な要素の一つです。

さらに、効率性と余剰との間の適切なバランスを探求しつつ、特定の分野で生じたショックが経済全体の成長を阻害することがないように経済成長の源泉を多様化することの利益を適切に考慮するべきです。こうした政策は、経済のレジリエンスを強化することに貢献し、新たな成長のフロンティアに乗り出すことを可能とするものです。

第三に、持続可能な成長（sustainable growth）に向け、気候変動など我々の共通の課題に取り組むため、グローバルな協調を強化することにも光を当てる必要があります。OECDは、グローバルな協調と世界全体のレジリエンスを高めるため、

投資や貿易など様々な分野において、グローバルな基準（スタンダード）形成にいかにかに有益な貢献をするかを考えることができるという強みを持っています。また、レジリエンス強化のための政策は、様々な発展の段階にある国々にも、過去の開発努力を支えるための方法として適用し得るものであり、それゆえ、より安定したよりレジリエントなグローバルな経済社会の実現に通じるものです。

私は、NAECは、こうした政策論議のための実質的なインプットを提供できると考えています。そのため、私は、2014年閣僚理事会に提出されることになっているNAEC統合報告書が、閣僚達が、よりレジリエントな世界に向けた将来の政策の方向性を見いだす助けとなることを期待しています。

3 OECDのグローバルな重要性－東南アジア地域プログラム

高度に相互に関連した世界経済においては、OECDはこれまで以上に、加盟国だけでなく非加盟国の現実についても考慮するよう求められています。そのため、加盟国閣僚の決定に従ってOECDが成長する経済との関与を強化することはきわめて重要です。

2014年閣僚理事会において、OECD事務総長は東南アジア地域プログラムの進捗よく報告を行うことになっています。東南アジアは世界貿易・生産の主要なエンジンの一つとなりつつあり、また、2008年以降の経済危機において、同地域の成長は卓越したレジリエンスを示したに鑑み、この戦略的地域へのOECDの関与をより深くすることで、OECDは、変化しつつある世界におけるグローバルな重要性を証明するまたとない機会を得られると考えます。

4 結論

最後に、私は、レジリエンスというコンセプトとOECDのアウトリーチ（非加盟国・地域への働きかけ）－特に東南アジア地域への－に焦点を当てることで、2014年閣僚理事会において閣僚が活発かつ知的に刺激されるような議論を行うための、新たな視座を提供できると考えます。私は、全ての加盟国及び事務局と協力し、可能な限り生産的な会合を開催したいと考えています。

（了）